

### マグマはどのようにして今日の萩を形成したのか

約 2 万年前、日本列島が現在のような形になり始めたころ、本州の西端では小さな火山が次々と噴火した。これらの火山が生み出した地形は、萩の街並みに深く影響を与えてきた。

- ☐ 阿武火山群
- ☐ 青野山火山群
- ☐ 長門峡
- ☐ 萩デルタ

写真のキャプション

7 豊ヶ淵

### 須佐湾

300 万年前、ユーラシア大陸の東端が分断され、日本海が広くなり、マグマが地殻を突き破って噴出した。溶岩が固まって日本列島や多くの海底火山ができた。須佐湾の景観が生まれたのは、このような時代の地質活動の中でのことであった。

- ☐ 見島
- ☐ 高山ガブロック
- ☐ スサ・ホルンフェルス
- ☐ 須佐グループ

写真のキャプション

9 モドロ岬

### 南からの動き

約 3 億年から 2 億年前にかけて、地殻プレートが沈み込み、萩地域の土台を作った。このプレートの動きによって、川上、福栄、阿東地域に石灰岩、チャート岩、その他の岩が分布した。太平洋プレートは北に移動し、大陸プレートの下に沈み込んだ。海山のサンゴや海底堆積物は、降着楔と呼ばれるもので、大陸の塊に押し付けられて融合した。

- ☐ 鹿無層群
- ☐ 半田石灰岩
- ☐ 阿武川グループ
- ☐ 象目石灰岩

### 大陸マグマの大規模噴火

今から約 1 億年前、日本はまだアジア大陸の一部だった。この頃、地球全体で激しい火山活動が起こっていた。地表から数キロ下では、過熱したマグマが広範囲で大規模な爆発を起こし、地殻が割れたり動いたりしていた。萩ジオパーク内では、この時期に発生したカルデラなどの火山活動の名残を見ることができる。

- ☐ 田万川カルデラ
- ☐ 佐々並カルデラ
- ☐ 山陽帯花崗岩
- ☐ 関門グループ